



河川 公益財団法人河川財団による  
基金 河川基金の助成を受けています。

喜多方市合併10周年記念事業

# 第25回 全国川サミット in 喜多方

報告書

上流は下流を想い、  
下流は上流を敬う  
私たちの生活を支える大切な川

主催／全国川サミット連絡協議会、  
喜多方市(第25回全国川サミットin喜多方実行委員会)  
協賛／一般社団法人北陸地域づくり協会、福島県治水協会  
後援／国土交通省北陸地方整備局、福島県、喜多方市教育委員会

問合せ 第25回全国川サミットin喜多方実行委員会事務局  
(喜多方市建設課まちづくり推進室)  
**TEL.0241-24-5240**

## 第25回全国川サミットin喜多方 共同宣言

阿賀川は、福島県・栃木県境の荒海山を源としています。猪苗代湖から流下する日橋川などの支川を合わせながら、会津盆地を流れ、尾瀬沼を源に流下する只見川と合流し、新潟県に入ると阿賀野川と名前を変え、日本海に注いでいます。

「第25回全国川サミットin喜多方」、上流の榎峰溪流から市街地を流れる田付川、そして、下流の阿賀川へと、肥沃な土地と豊富な水、舟運により栄えたここ喜多方を会場に「上流は下流を想い、下流は上流を敬う ～私たちの生活を支える大切な川～」をテーマに開催しました。

歴史や流域文化を育み、そして様々な産業を支えた川の恩恵を再認識するとともに、これからも川と共生した地域づくりに取り組んでいくことを誓い、ここに宣言します。

- わたしたちは、先人が築いた川の歴史や文化を大切にして、次の世代へ引き継ぎます。
- わたしたちは、水害から生命・身体及び財産を守るため、災害に強い川づくりに取り組みます。
- わたしたちは、未来を担う子供たちに、川とふれあう活動を通して、川を愛する心を育みます。
- わたしたちは、たくさんの生き物や清流を守るため、豊かな自然環境の保全に努めます。
- わたしたちは、川と共存する自治体同士の交流を深め、川に関わる人々の友好の輪を広げます。

平成28年11月5日

第25回全国川サミットin喜多方参加者一同

# 目次

## I 開催概要

(1) 全国川サミットとは .....	2
(2) 開催テーマ .....	3
参加自治体紹介 .....	4

## II 実施内容

現地視察 .....	11
全国川サミット連絡協議会総会 .....	12
国土交通省講演 .....	14
首長サミット .....	15
歓迎交流会 .....	28
全国川サミットin喜多方 開会式 .....	30
絵画コンクール表彰 .....	31
学校での取り組み .....	32
基調講演 .....	34
サミット宣言～閉会式 .....	36

### 表紙の写真

〈飯豊山と阿賀川〉

飯豊山は、標高2,105m、修験者の修行の場として信仰されてきた山です。イイデリンドウなど高山植物も多く生息し、毎年7月下旬に「いいでの集い」が開催され、多くの人々が訪れています。

## (1) 全国川サミットとは

川サミットは、一級河川と同じ名称または一級河川の流域にある全国の自治体が「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを活かしながら、川と共存するまちづくりを共に進めることを目的に、加盟自治体が持ち回りで開催しています。

### 全国川サミット開催のあゆみ

開催回	開催地	開催テーマ	開催回	開催地	開催テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぼ	第14回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川50年～
第2回	北海道鶴川町	きらめきりバータウン ～川と人の未来を求めて～	第15回	岐阜県揖斐川町	川面に暮らし 川とともに生きる
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～	第16回	東京都江戸川区	川の恵みとその脅威
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち ～ひと・まち・川 ちょっと素敵な物語～	第17回	群馬県みなかみ町	川を活かしたまちづくり・川と交流
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族	第18回	秋田県横手市	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」	第19回	兵庫県加古川市	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第7回	宮崎県北川町	思い出いっぱい 不思議がいっぱい ～川を彩るホテルの光が子供たちへの贈り物～	第20回	新潟県長岡市	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ ～それは川から始める～	第21回	茨城県取手市	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ～ちょっと素敵な川家族～	第22回	長野県川上村	流域文化に学ぶ
第10回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう 川の未来 水の未来～	第23回	千葉県香取市	歴史から学ぶ 川と私たちの暮らし
第11回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわい川 ～都市の中の川を考える～	第24回	新潟県新潟市	川が創った大地 ～水と土が紡ぐ歴史～
第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝える ふるさとのメッセージ ～水は生命の源～	第25回	福島県喜多方市	上流は下流を思い、下流は上流を敬う ～私たちの生活を支える大切な川～
第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！河川環境			

## (2) 開催テーマ

# 上流は下流を想い、下流は上流を敬う

～ 私たちの生活を支える大切な川 ～

上流の梅峰溪流から市街地を流れる田付川、そして、下流の阿賀川へと、市内を流れる幾筋もの河川は、古来よりこの地域の歴史や文化を育み、豊かな水と緑によって市民に潤いと安らぎを与え、稲作を中心とした農業、酒、味噌、醤油などの醸造業、物資や人を運ぶ阿賀川舟運により、地域の繁栄をもたらしました。

私たちの生活を支えてきた大切な川の恩恵を再認識し、川や水、森林などの自然を生かした地域振興やまちづくりを推進するとともに、全国川サミットを本市で開催することにより、喜多方の歴史や文化を全国に発信する機会とします。

主催／全国川サミット連絡協議会、喜多方市（第25回全国川サミットin喜多方実行委員会）

協賛／一般社団法人北陸地域づくり協会、福島県治水協会

後援／国土交通省北陸地方整備局、福島県、喜多方市教育委員会



# 参加自治体紹介



秋田県の南部に位置する横手市は、平成17年10月の8市町村合併により人口が秋田県下第2位の都市となりました。

横手盆地の中央に位置し、横手川と流域面積全国13位の「雄物川」が貫流しています。雄物川の河川公園は、平成21年度に国土交通省の「川の通信簿」で最高評価となる5つ星を獲得しました。

増田地区の町並みは、明治初期から戦前にかけて建てられた当時の情景をとどめており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

農業は横手市の基幹産業であり、「あきたこまち」、「りんご」、「山内いものこ」、「ホップ」、B-1グランプリでゴールドグランプリを受賞した「横手やきそば」など食における横手ブランドが揃っています。



増田の町並み



雄物川の河川公園



湯川村は、会津のへそとも言われるように会津盆地の中心に位置しており、東に秀峰・会津磐梯山を仰ぎ、西に春日八郎の故郷会津坂下町、南は白虎隊で有名な会津若松市、北にラーメンで有名な喜多方市にそれぞれ接している交通の要所です。

本村は、勝常寺を代表とする歴史的遺産と美しい田園環境に恵まれ、「米と文化の里」と呼ばれています。特産品である湯川米は日本一の食味を有しており、米の反あたりの収穫量は県内一を誇っています。

平成26年度に開業した「道の駅あいづ 湯川・会津坂下」は、年間100万人を超える利用者が訪れ、会津地域の情報発信の拠点、地域連携のためのハブ施設の役割を担っています。



湯川村田園風景



道の駅あいづ 湯川・会津坂下



取手市は、茨城県の南端部に位置し、南を「坂東太郎」と呼ばれ親しまれた一級河川「利根川」、北から東をその支流の「小貝川」が流れ、江戸時代には高瀬舟が行きかい、江戸への舟運の要衝として栄えました。また、水戸街道の宿場町として、人・物資・文化の交流で賑わいを見せていました。

首都圏から約40kmに位置し、昭和40年代から高度経済成長期には、大規模宅地開発により人口が増加し、首都圏のベッドタウンとして発展してきました。平成27年3月には上野東京ラインが開通し、取手駅から品川駅が最短49分で結ばれ都心が更に近くなりました。首都圏近郊でありながら、豊かな水と自然に触れ合える都市となっております。



小堀（おおほり）の渡し



とりで利根川大花火



みなかみ町は、谷川岳をはじめとする上越国境の山々に抱かれ、その雄大な自然から生じた生命の水をおくる「水と森を育む利根川源流の町」であり、首都圏の水瓶として利根川流域3,000万人の生命と暮らしを支える重要な責務を担っています。日本一流域面積の大きな川「坂東太郎(利根川)」と赤谷川の河岸段丘に沿って発展してきたみなかみ町。谷川岳の「一ノ倉沢・マチガ沢」に代表されるような国内第一級の山岳地や森林、清らかな水が流れ、蛭が舞う美しい田園、町内各地に湧き出る豊富な温泉などの大自然を地域の資源として活かしつつ、交流を通じて基幹産業の観光業と農業を活性化するまちづくりに取り組んでいます。

たくみの里



谷川岳一ノ倉沢



利根川でのラフティング

かとりし  
千葉県 香取市

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接しています。東京から70km圏にあり、世界への玄関口、成田国際空港から15km圏に位置しています。北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には関東一の米生産量を誇る水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。

日本の原風景を感じさせる田園・里山や、水郷筑波国定公園に位置する利根川周辺の自然環境をはじめ、東国三社の一つ「香取神宮」、江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在もその姿を残しています。関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたほか、今年4月には北総の町並みが「日本遺産」に認定されるなど、水と緑に囲まれ、自然・歴史・文化に彩られたまちです。



歴史的町並みと小野川(佐原の大祭) 水郷おみがわ花火大会

えどがわく  
東京都 江戸川区

江戸川区は東京都の東端部に位置し、西に荒川、東に江戸川など7つの一級河川と海に囲まれた水辺環境の豊かなまちです。全国の親水公園の先駆けとなった古川をはじめ、区内には総延長27kmの親水公園、親水緑道が流れ、潤いのある快適な都市空間を実現しています。その豊かな水辺を舞台に、第11回サミット(in江戸川)、第16回サミット(in荒川)を開催するなど、川とのふれあいや自然環境の保全・創出に努め、新たな都会の水辺環境を創出しています。一方、災害に強い江戸川区を目指し、区民の皆さんと協働でスーパー堤防整備などの治水対策にも積極的に取り組み、安全で安心なまちづくりを進めています。



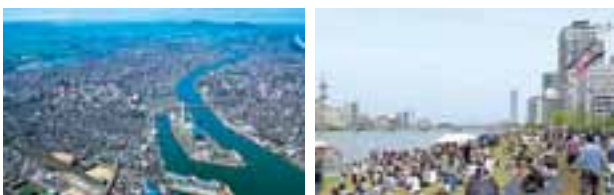
江戸川区全景

火の見やぐらと新川

にいがたし  
新潟県 新潟市

新潟市は、日本一の大河「信濃川」とそれに次ぐ水量をもつ「阿賀野川」の二つの母なる川から育てられ、水辺と共に歩み、古くから湊町として栄えました。世界に開かれた都市、東アジアに向き合う日本海拠点都市として、2007年4月に本州日本海側初の政令指定都市に移行しました。

本市は、整備された高速道路網や上越新幹線により首都圏と直結しているなど、陸上交通網が充実しているほか、国際空港・港湾を擁し、国内主要都市と世界を結ぶ本州日本海側最大の拠点都市として高次の都市機能を備えています。一方で、国内最大級の水田面積を持つ大農業都市でもあり、両大河により形成された「越後平野」は、米や野菜、果物、畜産物などの一大産地となっており、食料自給率63%という高水準を支えています。また、ラムサール条約登録湿地である佐潟や福島潟、鳥屋野潟といった多くの水辺空間や里山などの自然に恵まれています。

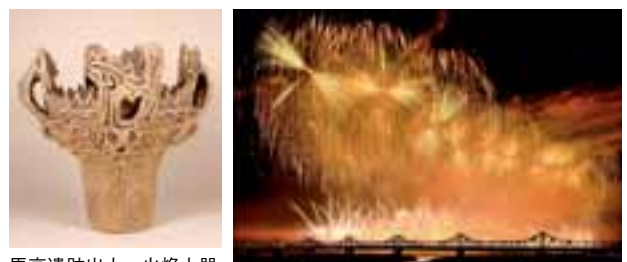


新潟市街地と信濃川(新潟市全景)

信濃川感謝祭やすらぎ堤川まつり2016(やすらぎ堤写真)

ながおかし  
新潟県 長岡市

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市内中央をゆったりと流れ、福島県境近くの守門岳から日本海まで市域が広がるまちです。平成17年度に9市町村、平成21年度に1町と合併し、長岡まつりや山古志の牛の角突き、寺泊の海の恵み、四季折々の自然など、個性ある11の地域の魅力が輝いています。平成16年の中越地震災をはじめとした幾多の災禍に遭いながら、長岡の人とまちは「まちとは人が興すもの。まちづくりは、人づくりから始まる」とする「米百俵の精神」で立ち上がってきました。「地域の輝きを力に「たくましく前へ」長岡」を合言葉に、「市民力」、「地域力」、そして「市民協働」の力を活かし、シティホールプラザ「アオーレ長岡」、「子育ての駅」など全国にさがけた人づくり、まちづくりを進めています。



馬高遺跡出土 火焰土器  
(所蔵:新潟県長岡市教育委員会)

長岡まつり大花火大会「フェニックス」



かわかみむら

## 長野県 川上村

川上村は全村が標高1,100メートルを超える高所にあり、千曲川(信濃川)源流の清らかな水と冷涼な気候条件に恵まれた高原野菜産地です。かつては島崎藤村が千曲川のスケッチの中で、「白米は唯病人に頂かせるほどの、貧しい、荒れた山奥の一つである」と記したほどの、隔絶された大変貧しい地域でありました。

長い間の自給目的の主穀(雑穀)栽培農業に、昭和11年の小海線の開通が大きな変革をもたらし、出荷野菜として白菜の栽培が始まり、キャベツ、大根を組み合わせた農業を経て、昭和20年代半ばからはレタスが試作導入されました。その後、日本人の食生活の変化とともに、県営パイロット事業等の基盤整備事業に積極的に取り組み、生産量日本一であるレタスをはじめとした高原野菜産地を築きあげてきました。近年では、各種スポーツイベントを活用した野菜消費キャンペーンやレタスの海外輸出のほか、後継者の支援を目的とした新婚住宅の建築、

訪問看護の充実など新たな村づくりが始まっています。



レタス畑



千曲川(信濃川)の源流



しまんとし

## 高知県 四万十市

四万十市は旧中村市と旧西土佐村が平成17年4月10日に合併して誕生しました。高知県西南部、四万十川の中流から下流に位置し、豊富な山林資源や、南東部は太平洋に面しており豊かな環境に恵まれています。

四万十川の中流域ではカヌーやボート、キャンプなどのアウトドアを楽しむことができます。下流域では、観光屋形船やトンボ自然公園、佐田の沈下橋などの見どころがあり、伝統的な「川漁」などの風物にもめぐまれています。

また、旧中村市は、今から約550年前、前関白一条教房公が応仁の乱を機にこの地に下向し、京都を模したまちづくりを始めたことから、「土佐の小京都」と呼ばれています。



四万十川と沈下橋



鮎の塩焼き



いびがわちょう

## 岐阜県 揖斐川町

揖斐川町は、岐阜県の最西部に位置し、北側は福井県、西側は滋賀県と接しています。総面積803.44平方キロメートルのうち森林が91パーセントを占める緑豊かな町です。町の中心を流れる揖斐川の最上流部には、日本一の総貯水量を誇る徳山ダムがあります。徳山ダムは流域の住民を水害から守り、豊かな水の恵みを下流へと届けています。ダム湖周辺の山々は四季折々の姿をみせる風光明媚な場所として観光客からも人気があります。濃尾平野の最北端にあたる町の南部地域は、なだらかな傾斜と水はけの良い地質がお茶の栽培に適しており、特産の「いび茶」の産地となっています。

また、今も多くの歴史が残る揖斐川町には、西国三十三ヵ所巡りの最終札所「谷汲山華嚴寺」や美濃の正倉院と呼ばれる「両界山横蔵寺」など、多くの寺社仏閣があり年間を通して多くの参拝客が訪れます。

毎年11月に開催する「いびがわマラソン」は、コースの景観と沿道の応援がランナーに好評で毎年1万人を超えるランナーが秋の揖斐川を駆け抜けます。



揖斐川



徳山ダム



あいづわかまつし

## 福島県 会津若松市

会津若松市は福島県の西部、会津盆地の東南に位置する旧会津松平家の城下町です。

市内には飯盛山や鶴ヶ城を代表とする歴史を偲ばせる施設や、東山温泉、芦ノ牧温泉等の温泉地があり、多くの観光客が訪れる観光都市です。また、市の東部は猪苗代湖に面しており、レジャーを楽しむ人が大勢訪れています。

漆器や絵ろうそく、酒造といった昔からの伝統産業が盛んです。豊かな大地に恵まれ、おいしい会津米をはじめ農作物も自慢です。コンピュータ専門の会津大学があり、近年はIT産業でも注目を集めています。

郷土料理では、ニシンの山椒漬、棒タラ煮、こづゆ、味噌田楽、わっぱ飯などがあり、現在ではソースカツ丼、カレー焼きそばといったB級グルメも人気です。



鶴ヶ城と桜



会津まつり 会津藩公行列





こおりやまし  
福島県 郡山市

郡山市は、福島県の中央に位置し、東は阿武隈山系、西は奥羽山脈と猪苗代湖に接し、北は安達太良山を望み、市街地東部を阿武隈川が南北に貫流し、東北地方では有数の商品販売額、製造品出荷額を誇るとともに、米については、食味、生産量ともに全国トップクラスの「農業・商業・工業」がバランスよく発展している東北の拠点都市です。

首都圏から東北新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、鉄道や東北・磐越両自動車道が縦横に交差するなど、交通の利便性が良いことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情報」が集まる中核市、そして経済県都として成長を続けています。

今なお、東日本大震災や原子力災害が市民生活に影響を及ぼしている中、B-1グランプリなど、復興イベントの開催や相次ぐ企業の進出など、復興に向けて着実な歩みを進めています。



布引風の高原から望む猪苗代湖



うねめまつり



いわきし  
福島県 いわき市

いわき市は、昭和41年10月1日に14市町村が大同合併して誕生し、平成28年10月1日をもって市制施行50周年を迎えました。

いわき市は、福島県の東南に位置し、南は茨城県、東は太平洋に接しており、広大な面積を有するとともに、東北地方有数の人口を擁しております。さらに、寒暖の差が比較的少なく、日照時間は全国有数の長さを誇っていることから、とても過ごしやすい安定した気候に恵まれており、豊かな自然環境に育まれた新鮮な魚介や農産物など、美味しいものがたくさん揃っています。

また、本市は温泉も有名であり、日本の三古泉の一つ「いわき湯本温泉郷」は、千年以上の昔から愛されており、湯量豊富で多種多様な効能を有し、フラダンスで有名なスパリゾートハワイアンズは年間約200万人の観光客が本市を訪れております。



三崎公園・いわきマリナタワー



スパリゾートハワイアンズ



しもごうまち  
福島県 下郷町

下郷町は、福島県の西南、南会津の東端に位置し、南は栃木県に接している。町の88%を森林が占める緑豊かな町です。町の中央には阿賀川(大川)が流れ、国指定天然記念物「塔のへつり」に代表される雄大な渓谷が形成されています。

町内には、大内宿や湯野上温泉、中山風穴など多くの観光スポットがあり、毎年多くの観光客が訪れます。江戸時代に宿場町として整備された大内宿は、今でも茅葺き屋根の家々が立ち並び、風情ある町並みが残されています。他にも観音沼森林公園や、40ヘクタールの面積を誇る猿楽台地のそば畑など、見どころの多い町です。

歴史、文化、自然を感じることができる下郷町に、ぜひおいでください。



猿楽台地のそば畑



重要伝統的建造物群保存地区 大内宿



みなみあいづまち  
福島県 南会津町

南会津町は、福島県の南西部、栃木県境に位置し、尾瀬国立公園の田代山をはじめとした雄大な山々に囲まれた自然豊かなまちです。春は湿原散策や登山、夏はアユ釣りや川遊び、秋は彩り鮮やかな紅葉、冬はウィンタースポーツと、一年を通じて自然を満喫しながら、四季折々の表情を楽しむことができます。

また、京都の祇園祭と並び日本三大祇園祭のひとつに数えられる会津田島祇園祭や重要伝統的建造物群保存地区に選定された前沢曲屋集落など、歴史と文化に裏打ちされた祭や見どころも盛り山。

どこか懐かしい、日本の原風景が残る南会津町。人情味あふれる笑顔とおもてなしで来町する皆様をお迎えいたします。



重要伝統的建造物群保存地区「前沢集落」



会津田島祇園祭「七行器行列」



きたしおばらむら  
福島県 北塩原村

北塩原村は、福島県の北西部に位置し、総面積は234.08km<sup>2</sup>で東西22.5km、南北19.3kmに渡っています。地理・地形から標高200～300mの北山地区、400～500mの大塩地区、800～1,000mの桧原・裏磐梯地区に3地域に大きく分かれます。主な産業は農業と観光業となっています。

北山地区は、会津盆地を望み、農地が広がるエリアで米、アスパラガス、キュウリなどを主に生産しています。大塩地区は、江戸時代から続く温泉と農業のエリアで温泉を使った会津山塩は村の特産品となっており、山塩ラーメンは人気があります。桧原・裏磐梯地区は、観光と高原野菜そして漁業産業のエリアで1888年に起きた磐梯山噴火によりできた裏磐梯高原と約300を超える湖沼群が織りなす景色は人々を惹きつけ、年間約260万人が訪れる福島県を代表する観光地です。



裏磐梯高原



きたしおばら交流フェスタ



にしあいづまち  
福島県 西会津町

西会津町は、福島県会津地方の北西に位置し、北に飯豊連峰を望み、町の中央を阿賀川が東西に流れる自然豊かな町です。

古くから会津の霊地として親しまれ、人々の心のよりどころ、癒しの中心地となっています。

また、恵まれた大自然のきれいな水と豊かな大地を活かし、ミネラルバランスのとれた健康な土作りから取り組んで育てた農作物は、西会津ミネラル野菜としてブランド化しています。さらに、農家に泊まり農業を体験する農泊や、各種収穫体験、物作り体験、スノートレッキングやリバーウォークなど、西会津の自然をまるごと感じる事ができる各種体験プログラムを準備しています。



紅葉の銚子の口



飯豊連峰と阿賀川



ばんだいまち  
福島県 磐梯町

磐梯町は会津盆地の北東部に位置し、万葉集に「会津嶺」と詠まれた磐梯山や日本名水百選に認定された湧水を有する山紫水明の町であります。

また、「温もりと活力あるまちづくり」を基本理念に掲げ、子育て支援、幼小中一貫教育など多くの事業に取り組んでおります。

当町には、平安初期に高僧徳一菩薩によって創建された国指定史跡 慧日寺跡があり、東国仏教文化発祥の地として栄えた歴史と文化を受け継ぎ、平成20年に金堂、翌年に中門が復元され、平成28年1月には、これらの歴史文化を守り継承していくための「磐梯町歴史的風致維持向上計画」が国の認定を受けました。さらに、慧日寺の本尊が薬師如来であったことに象徴されるように、薬師信仰が今なお根付いていることから「薬草の里づくり事業」を進めております。



磐梯山とそば畑



史跡慧日寺跡 ともし火と仏教音楽の夕べ



いなわしろまち  
福島県 猪苗代町

猪苗代町は、磐梯山と猪苗代湖に代表されるように、豊かな緑や清らかな水に恵まれた雄大な自然が脈々と息づいている山紫水明の地です。これらの自然が織りなす四季折々の美しさは、まさに“地球が生んだ大いなる造形美”と言っても過言ではなく、年間を通して多くの人々を魅了しています。

この自然環境に加え、世界の偉人「野口英世博士」の生家や「会津藩祖・保科正之公」を祀る土津神社をはじめ、多くの名所旧跡を有するなど全国でも有数の観光地であります。

2009年のフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会が開催されましたことは記憶に新しい出来事ですが、ウィンタースポーツのほかにも猪苗代湖を利用したマリンスポーツやフィールドスポーツなど、一年を通してあらゆるスポーツが楽しめるスポーツの町でもあります。



初冬のたぐれ



観音寺川の桜



あいづばんげまち  
福島県 会津坂下町

会津坂下町は、福島県の西側会津盆地の西部に位置し、東部を阿賀川、西部を只見川が流れ東に広がる平野部は、標高170m前後の豊かな農地で、西部は200～300mの山が連なる。気候は、夏は盆地特有の高温多湿、冬は積雪が1mほどの季節感豊かなまちです。

町内には、良質な水と米を原料とした酒造業や国産大豆や地元の原料を生かした味噌・醤油を醸造し伝統の味を守り続けています。

街中には、馬肉の産地として有名な会津の馬刺しの販売店や飲食店が10店舗あり各店秘伝の辛味ニンニクダレで食するのが特徴です。

また、古来より仏教文化が盛栄したことから仏像・寺院が点在し、国・県の重要文化財も数多くあり伝統文化にみちあふれたまちです。



ばんげ初市大俵引き



木造千手観音立像



やないづまち  
福島県 柳津町

柳津町は、会津地方の西部に位置し、町を縦断するように只見川が悠々と流れ、深い緑に囲まれた自然豊かな町であります。千二百年の歴史がある福満虚空藏菩薩を中心に栄えた門前町であり、七日堂裸まいりや 稚児行列、九月堂おこもりなどの伝統行事が古くから行われてきました。門前町であったため古くから宿坊が軒を連ねていましたが、今は旅館に姿を変え柳津温泉街となっています。また、地熱発電所がある西山地区には滝谷川沿いに開けた西山温泉があり、昔も今も湯治客でにぎわっています。



紅葉の福満虚空藏菩薩圓藏寺



柳津西山地熱発電所



しょうわむら  
福島県 昭和村

昭和村は福島県会津地方の南西部に位置し、標高1,000m級の山々が郡界や町村界に接しており、標高400mから770mの盆地状の平坦部に10の行政区が広がっています。

江戸時代中期から続く伝統ある「からむし」栽培地として知られ、特産品である「からむし織」は県の文化財に指定されており、毎年、全国から「からむし織体験生(織姫・彦星)」を募集し、後継者育成にも取り組んでいます。近年は「宿根カスミソウ」栽培にも力を入れています。現在はカスミソウ新規就農者の受入事業も行っており、夏秋期の栽培面積は、全国市町村別第1位の規模を誇ります。

村内は、矢ノ原湿原や玉川溪谷、清水など自然美の宝庫であり、点在する集落とあわせて日本の原風景が広がる村です。



宿根カスミソウ



昭和村全景(奥会津昭和の森キャンプ場みはらし広場より)



「からむし織の里フェア」で例年行われる「着物ショー」



あいづみさとまち  
福島県 会津美里町

会津美里町は、会津高田町、会津本郷町、新鶴村の旧3町村が合併して平成17年10月1日に誕生しました。

福島県の西部に位置し、東は会津若松市、西は柳津町、北は会津坂下町、南は下郷町・昭和村に接しています。

高田梅や朝鮮人参など特徴的な農産物や「会津」発祥の起源に由来する伊佐須美神社、東北最古の焼き物として知られる会津本郷焼や、野口英世博士ゆかりの中田観音などの由緒ある神社仏閣などがあり、古い歴史と美しい自然に恵まれた町です。



あやめ祭り



大俵引き



いしかわまち  
福島県 石川町

石川町は、福島県の南部、阿武隈高地の西側に位置し、阿武隈川東岸の平坦地と阿武隈高原に連なる山間地から形成される自然豊かな美しいまちです。

地質は、東側を竹貫・御齋所変成岩、西側が花崗岩帯となっており非常に安定した地質になっております。また、本町は、滋賀県田上地方、岐阜県苗木地方とともに日本三大鉱物産地として有名であり、約150種類の鉱物を産出しております。

現在は、人口約1万6千人で、ラジウム温泉として有名な八幡太郎義家ゆかりの母畑温泉・和泉式部ゆかりの猫啼温泉等により年間30万人の交流人口があり、石川地方の政治、経済、文化の中心的役割を果たしております。



今出川沿いの桜並木



母畑温泉



あがまち  
新潟県 阿賀町

阿賀町の総面積は953km<sup>2</sup>、山形県の南部、福島県に隣接し、新潟県内では村上市、上越市に次いで3番目に大な面積を抱える中山間地の町です。町の94%が森林で県境部には飯豊連峰や御神楽岳を配し、県内でも有数の豪雪地であることから流域の水源涵養地として地域に恵みをもたらしています。

中でも阿賀野川は、水系を通して豊富な水量と山間地の落差を利用した水力発電が盛んで、町内には豊実・鹿瀬・揚川の3つのダムにより5か所の発電所が稼働し、自然を活用したクリーンなエネルギーの供給に活躍しております。

川を活かした観光面では、阿賀野川ライン下りや奥阿賀遊覧船など日本百景の一つである阿賀野川の渓谷美や四季折々に変化する木々の美しさを存分に楽しんでいただけるほか、支川の常浪川では、優雅なきつねの嫁入行列のクライマックスとなる川渡りが演出され、毎年多くの来町者に好評をいただいております。又、支川新谷川では、毎年11月上旬に川祭りとして「鮭のつかみ取り」が開催され、多くの方に参加頂いております。

阿賀町はこれからも阿賀野川とともに、自然の恵みを子供たちに引き継いでいきたいと願っています。



赤崎山から望む鹿瀬ダム



つがわ「きつねの嫁入り行列」



新谷川の川まつり「鮭のつかみ取り」風景



きたかたし  
福島県 喜多方市

喜多方市は、福島県北西部、会津盆地の北部に位置し、北西に飯豊連峰の雄大な山並み、東に磐梯山を望む雄国山麓、平地部には田園風景が広がる豊かな自然に恵まれた風光明媚なまちです。

市内には、良質な水と米を原料とした酒造業や、桐材加工・漆器など伝統産業が息づいています。

100軒を超えるラーメン店が軒を連ねていて「ラーメンのまち」として知られているほか、市内各地で「そば」も栽培されており、地域ごとに特色のあるそば文化が育まれています。

市内を歩けば昔ながらの蔵が街並みに溶け込んでいるほか、国県の重要文化財に指定されている文化財も多数存在しているなど、自然・伝統・文化にあふれたまちです。

また、「花でもてなす観光きたかた」として、三ノ倉スキー場の約8.3ha 約250万本のひまわり畑は東北一と言われています。



三ノ倉高原ひまわり畑



会津塩川バルーンフェスティバル

## 【日中ダム】

第25回全国川サミットin喜多方では、総会に先立ちまして現地視察が行われました。

喜多方市役所近くを流れる「田付川」を橋上から視察後、喜多方市の北部にある「日中ダム」を見学しました。



田付川にかかる橋から日中ダムの方向を仰ぐ



喜多方市役所近くを流れる田付川を見学



喜多方市の水瓶の一つ、日中ダム



日中ダム管理棟にて職員から日中ダムの概要の説明を受ける



日中ダム管理棟にて職員から日中ダムの概要の説明を受ける



模型で見るダムの全体図

# 全国川サミット連絡協議会総会

■実施内容 第一日目2016年11月4日(金) ■会場 喜多方市役所本庁舎ホール棟2階大会議室

熱塩加納村・塩川町・高郷村・山都町そして旧喜多方市の5つの市町村が平成18年1月に合併し今年で合併10周年を迎える喜多方市において、市役所本庁舎ホール棟2階の大会議室にて全国川サミットが開催されました。開催地の山口信也喜多方市長より各地からお越しいただいた出席者の皆様へ、歓迎と感謝の意が述べられました。

連絡協議会総会は前年の第24回全国川サミット開催地である新潟市、開催地の喜多方市から報告と議案を提出、本サミット宣言を含めすべての議案が原案通り承認されました。また、平成30年度開催予定地の広島県三次市の佐々木由紀建設部付課長よりご挨拶頂きました。



山口信也 喜多方市長



伊藤 和久  
国土交通省北陸地方整備局河川部長



前田 和則  
福島県土木部次長



佐々木由紀  
三次市建設部付課長

## 来賓紹介

- ・伊藤 和久 国土交通省北陸地方整備局河川部長
- ・前田 和則 福島県土木部次長
- ・小俣 篤 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長
- ・安井 辰弥 国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所長
- ・石川 俊之 国土交通省北陸地方整備局阿賀野川河川事務所長
- ・木村 勝美 福島県喜多方建設事務所長

# 平成28年度 全国川サミット連絡協議会総会 次第

日時：11月4日(金) 午後3時

場所：喜多方市役所本庁舎

ホール棟2階大会議室

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 来賓祝辞
- 4 報 告  
参加状況等について
- 5 議 題
  - (1)報告事項
    - ・報告第1号 第24回全国川サミットin新潟 事業報告について
    - ・報告第2号 第24回全国川サミットin新潟 収支決算について
  - (2)協議事項
    - ・協議第1号 第25回全国川サミットin喜多方 事業計画(案)について
    - ・協議第2号 第25回全国川サミットin喜多方 収支予算(案)について
    - ・協議第3号 第25回全国川サミットin喜多方 共同宣言(案)について
    - ・協議第4号 今後の全国川サミット開催予定について
    - ・協議第5号 今後の常設の事務局について
- 6 その他事項
- 7 閉 会



## 「水辺がつなぐ地域活性化」

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 小 俣 篤 氏



### 水防災意識社会 再構築ビジョン

平成27年9月の関東・東北豪雨災害では直轄河川の鬼怒川の堤防が決壊し家が流されるような、非常に大きな水害が発生しました。このような洪水がいつ起こるか分からないような状況になってきており、今年も北海道に台風が上陸するという、今までに無いような気象状況が起こっております。水防災という事を地域の方と一緒に意識しながら、人命・財産を救う対策をしていきたいと思いますというのが「水防災意識 再構築ビジョン」に込められた思いであります。

#### 〈市町村の水害対応をサポートする取り組み〉

- 市町村長へのホットラインの取り組みの加速
- 避難勧告等の発令に着目したタイムラインの策定支援
- 水害危険性の周知の取り組みの促進
- 全国の要配慮者利用施設への説明会の開催
- 地下街等の浸水対策の促進

### 水意識社会の形成

普段から地域で川に親しんで多くの人が川を訪れることが、防災にも役に立つのではないかとということで水意識社会というのを提唱させていただいています。

かわまちづくり支援制度は、地域の創意に富んだ知恵を活かし、市町村・民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携のもと、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。

- 北海道美瑛町 サイクリングロードや遊歩道を作り、河川管理の通路として併用している
- 福岡県北九州市 河川関係および地元自治体の取り組みをまとめ、水辺空間の価値を高めている
- 広島県広島市 民間活力による水辺賑わいの創出。  
占有許可を緩和し、民間事業者が利用することが可能に

### ミズベリングプロジェクト

身近にある川をほとんど意識していない人々・企業に対して、川の外から改めて川の価値を見いだす機会を提供し、身近なニューフロンティアとして川を活かす取り組みである。例えば江別市では水辺に本屋を作り、そこで読めるようにしたり水辺でパーティができるように整備したりしています。飛騨高山では中心部を流れる宮川に川床を作成しイベントを開催しました。

水辺活用の新しい取り組みをそれぞれの地域でも考えていただき気軽にご相談いただきたい。防災上問題があるもの以外できるかぎり実現していきたいという強い思いがある。



# 首長サミット



福島県喜多方市 山口 信也 市長

喜多方市は阿賀川の上流に位置しており、北西に飯豊連峰、東には磐梯山を望む雄国山麓の山々が連なっています。そこから流れる水は幾筋もの川となり、会津盆地の北部に肥沃な土壌をつくりました。土壌を構成するコロイドの母材が数十種類あり、それが単純な単体母体でないという事で保肥力や保水力が高く、それが肥沃な土壌を作り出しています。

また、喜多方市には日中ダムがあり、流域面積も40平方kmにおよび、広大な面積からの有効貯水が2310万トンで、農業用水等に利用されています。水に関しては他にも、飯豊山の伏流水を利用したりと、水に恵まれた町であると考えています。

阿賀川は、新潟福島大豪雨により大河川の只見川が喜多方に集まり、水位も増したところに一ノ戸川が逆流してしまったという事もあり、今後もそういった災害には気を付けないと危険だという事で市民にも呼び掛けています。水防につきましても、阿賀川河川事務所と緊密な連携を図ってまいりたいと考えています。

市民が安全な生活ができるように様々な取り組みを行ってまいりたいと思いますので、これからもよろしくお願ひ致します。



秋田県横手市 佐藤 耕樹 建設課主幹

横手市は第6回と第18回の川サミットを開催しています。横手市の西部には南北に流れる雄物川があり、その支流として横手川、皆瀬川、成瀬川などが流れています。雄物川には面積20haの雄物川河川公園があり、その親しみやすさや快適性などを評価する「川の通信簿」で平成21年、26年と最高評価のランク5をいただいています。園内は、1.3kmの舗装路を利用してインラインスケート、ジョギングなどを楽しむ人たちが、せせらぎ水路で水遊びに興じる子供たちで賑わっています。また、芝生広場は家族連れのバーベキューやデイキャンプに利用されており、春から秋まで市内外の多くの方々が訪れています。

また南の成瀬川支流に狙半内川があり、ここは、横手市出身で漫画「釣りキチ三平」の作者矢口高雄さんが子供の頃釣りを楽しんだ川で、漫画の題材にもなっている場所です。これにあやかり市では、平成22年に増田町の狙半内地区の旧小学校を改修し、「釣りキチ三平の里」体験学習館をオープンしました。この施設ではイワナ釣りや掴み取り体験などの農山村体験、また野外活動体験ができ、小学生を中心にセカンドスクールの的に利用されています。

一方で横手市は豪雪地帯であり、道路の除雪した雪や屋根の雪下ろしをした雪などを各世帯が処理する必要があります。市内各所に流雪溝があり、川からポンプアップした水や地下水をくみ上げ、雪をその側溝に流しています。そして、その水をまた川に返すという方式で、排雪の処理をしています。また、市内数か所の河川敷は雪捨て場として一般開放しており、自由に使っていただいています。

このように横手市では、地域の安らぎや活動の場、また克雪対策として川を利用させていただいています。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 福島県湯川村 三沢 豊隆 村長

湯川村は喜多方市さん、会津若松市さんと隣接して縦貫北道路を走行すると、「あれ湯川村あったのか」というぐらいの4km四方の小さい村ですが、会津盆地のへそにあります。そのへその、盆地のなかで一番景色の良いところです。阿賀川の堤防、その上に立って見ると「この景色だけで観光になる」そのくらいとても素晴らしい景色であります。

実は湯川村は日橋川それから阿賀川、そして下は只見川が、皆重なって阿賀野川になるのですが、この治水がうまくいかないと湯川村はもう川底となります。ただその事によって肥沃な土壌がもたらされ、米処となりました。ふるさと納税で1万俵があつという間に全国の皆様からお申し込みいただきまして、8,000人、約3億2,800万円のご支援をいただいております。

阿賀川沿いに、2年前に会津坂下町さんと共同で「人・川・道の駅」三位一体型の道の駅を作りました。年間100万人ほどの人で賑わっております。そのような中で、今後はサイクリングロード50kmぐらいの整備が計画されています。今後もこれからの在り方においてこの河川を活かして、湯川村の活性化に役立てていきたいと思っております。



## 茨城県取手市 野口 龍一 副市長

取手市は茨城県が一番南の方にある市です。南側に坂東太郎「利根川」が流れています。さらに北側に暴れ川と言われている小貝川が流れ、数年前にも小貝川で大きな災害を受けたという市です。

川の歴史で町が栄えてきたという事もあり、取手市を流れている利根川の上流であるみなかみ町さんとは平成21年から友好都市締結を結んでおります。それから下流は千葉県の香取市さんなどと川を結んだまちづくりができないかという事で、利根川下流域19市町村で「利根川舟運地域づくり協議会」というものを作り、そこで川を利用したまちづくりをしています。

我々の課題として挙げられているのが、明治時代に利根川の河川改修でお隣の千葉県側に残された取手市の地域があります。小さな堀と書いて「小堀」という地域があり、渡し舟を使って取手市の本市の方と行き来をしていた歴史があります。今は橋が出来てバスが通っており、地域住民の方との連絡はそういう形でとっています。また、観光の目玉おおほりで小堀の渡しを市営で運営しているところでもあります。この小堀おおほりの渡しで取手市の名前を売り込めないかという事で、様々な対応をしているところです。

まちおこしという事で考える点で、取手には利根川の流域に東京藝術大学の取手校地があります。藝大さんと色んなまちづくりの話し合いをしており、東京藝大さんと取手市の出発点おおほりに小堀の渡しを考えています。まだ構想段階なので、これから具体的に進めていきたいと思っておりますが、是非その際には国土交通省さんのご協力の方をいただければありがたいなという風に思っています。



## 群馬県みなかみ町 鬼頭 春二 副町長

みなかみ町は群馬の最北端に位置し、流域面積日本一の利根川の源流があり、5つのダムを有する事から関東の水がめと呼ばれています。面積は780.91平方kmで、その大半が国有林を含む山林です。これらの広大な山林やダムは首都圏3,000万人の水がめを支える重要な役割を担っています。

みなかみ町では、豊かな水や森林をはじめとするたくさんの自然と人間社会が共生する事を目的としたユネスコエコパークの登録を目指しています。今年の8月に日本ユネスコ国内委員会におきましてユネスコへの推薦が決定されたところであり、順調にいけば来年6月頃にはユネスコ本部で審査決定となる予定です。

また、「みなかみ18湯」という数多い温泉郷を活かした宿泊観光に加え、スキー・登山といったスポーツが多くの人を魅了してまいりました。最近では利根川の源流を利用したラフティング・キャニオニング、ダム湖を活かしたレイクカヌー等の活動も多くの人に受け入れられており、様々な方に訪問いただいています。

今後も川や水、森などの自然を活かした地域振興や町づくりを推進していきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## 千葉県香取市 宇井 成一 市長

香取市は平成18年3月に合併して誕生した市で、先の東日本大震災では6,000棟の建物が被災し甚大な被害がありました。現在は観光入り込み客がようやく震災前の水準に戻ったところです。市域の北部を利根川が東西に流れており、これが江戸期から舟運の発展により栄え、その一帯は関東一の米の産地であり、利根川から多くの恩恵を受けている地域です。

市内には、1級河川が15河川流れ、水郷と呼ばれる地域です。利根川沿いには「水の郷さわら」があります。ここは新鮮野菜の直売所がある「道の駅」と、舟遊びができる「川の駅」が併設した複合施設であり、年間120万人以上の買い物客と観光客で賑わっています。佐原地区を流れる利根川支流の小野川周辺は日本で初めて実測日本地図を作成した伊能忠敬の旧宅が残っており、その町並みは「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受け、小野川のゆったりとした流れと相まって情緒あふれる景観が魅力となっています。4月には日本遺産に認定をされ、水郷の町の佐原が江戸の繁栄を支えた歴史が残ります。

小野川を挟んだ両地域で行われる「佐原の山車行事」は、かねてよりユネスコ無形文化遺産に申請をしていたところですが、この10月31日に評価機関より勧告がなされ、今月末にはユネスコ登録される事がほぼ確実となったところです。この登録が地域振興に繋がる事は必至であり、国内外からさらに多くの皆様方に訪れていただける事と期待をしているところです。

今後も河川からもたらされる多くの恵みに感謝を忘れず、この恵みをまちづくりに活用し、また治水に配慮しながら川と共存した地域づくりに取り組んでまいります。

※「佐原の山車行事」は、12月1日にユネスコ無形文化遺産に登録されました。



## 東京都江戸川区 深野 将郎 土木部長

江戸川区は東京の一番東側千葉県境にあります。江戸川・荒川・新川等の7つの1級河川が流れています。もともと地盤の低いところに地盤沈下等もあり、水害等には悩まされてきました。今では放水路の開削や堤防強化により、一定の安全は保っています。今は気候変動等によるスーパー台風等がありますが、国土交通省と一緒に、スーパー堤防と合わせた安全の町づくりを行っています。

もともと江戸川区は小河川や水路があるような町でしたが、一定の都市開発の中ではそれらの川はドブ川と化していました。ただ、ドブ川を埋めて道路を作るのではなく、親水公園や親水河川などを造ってきました。

最近では、江戸時代に塩の道として利用されていた新川に、江戸情緒あふれる3kmほどの水辺空間に千本の桜を配し、江戸情緒を醸し出すような7つの木橋群、また火の見櫓がある広場などを作りました。

江戸川区は今年、都市空間部門という形で都市景観大賞を取る事ができました。地域の住民の方と一緒に作ったまちづくりというのが評価されたという風に思っています。今回全国から参加された自治体の皆様と情報交換して、川の恵みの事や、時として姿を変えて襲ってくる洪水等の水の脅威についても共通認識を深めたいと思っています。



## 新潟県新潟市 古木 岳美 副市長

新潟は、信濃川と阿賀野川の2つの川が運ぶ土砂が堆積した越後平野により形成されています。市内の大部分に海拔0m地帯が広範囲に広がっていることから水が溜まりやすく、かつては地図にない湖と言われました。人々は腰まで泥水に浸かりながら農作業を強いられていた時代があり、こうした状況を解消するために明治42年から、当時東洋一の大工事と言われていた大河津分水の工事が始まり、大正11年に通水しました。併せて土地改良

事業も進めた結果、越後平野が日本有数の肥沃な穀倉地帯となりました。

市街地の中心には信濃川が流れ、萬代橋から上流側にある河川堤防「やすらぎ堤」は、国土交通省北陸地方整備局から整備していただいているもので、人が水辺に近づけるように様々な工夫をしています。併せて、市がサイクリングロードや緑地の整備を行い、年間100万人以上の方々に利用していただいています。また、今年の7月から9月下旬まで、やすらぎ堤の一部区間で河川の敷地を利用したビアガーデン等の店舗営業を行い、市民や観光客の方々から高い評価をいただきました。

新潟市は、信濃川と阿賀野川の2つの大河が運んでくる大量の水と土に生まれ、時には洪水と闘いながら、水と土と共に生きていく文化を育んできました。

## 新潟県長岡市 谷畑 哲也 河川港湾課長



長岡市は信濃川が市の中心部を流れており、その他多くの中小河川が市街地を流れています。これらの川は肥沃な土壌をもたらし、絶品のお米や野菜を食卓に届けてくれます。中でも16品目もの長岡野菜の栽培に大きく寄与しています。

川を活かした取り組みに大花火大会があります。信濃川が生み出した約1kmほどの幅のある広大な河川空間を長岡まつり大花火大会の打ち上げ会場として活用しています。名物花火合計2万発が夜空を彩り、今年は2日間で102万人の方が訪れました。

また、信濃川流域から出土された火焰型土器等4点をロンドンの大英博物館に貸し出し、先月14日から展示が開始されました。さらに流域の県内5つの市と町が連携し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの聖火台にこの火焰型土器の採用を求める活動も行っています。ぜひ、皆さまからも火焰型土器の採用にご賛同いただき、応援いただくようお願い申し上げます。

---

## 長野県川上村 西尾 友宏 副村長兼政策調整室長



川上村は信濃川や千曲川が流れており、その千曲川の源流域の村です。当村では治水より豊富な水資源を活かした水資源の活用という観点で、川と携わってまいりました。

当村は夏場のレタスや白菜といった高原野菜の生産量日本一の村であり、これは千曲川の源流という水資源が豊富にあったという事の恩恵であると考えています。

当村は農業の村ではあるのですが、発達した農業や農業技術の発展のため、平地林の開墾で農地を増やしてきた歴史があります。その急激な農業の拡大によって今まで千曲川の氾濫はなかったのですが、昨今ある台風やゲリラ豪雨の際に急激に千曲川の水位が上がり、農地からの水が流れてしまうというような課題が出てきている状況です。まさに水資源の活用だけでなく、河川環境の保全と産業の発展という3点を両立する事が、流域人口300万人を抱える信濃川、千曲川の源流域の村の責任として、しっかりと携わっていかねばならない今後の課題だと思っています。

今回このようなサミットに参加させていただきましたが、課題の点を皆さんにご紹介させていただきました。皆様からご意見をいただきつつ、お互いに意見交換をしながら川の利用のモデルを作るべくしっかりと頑張りたいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。



## 岐阜県揖斐川町 山内 健志 企画部長

揖斐川町は平成の大合併で1町5村の6町村が合併してできた町でございます。この合併により、面積は約800平方kmとなり、90%以上は森林という大変自然豊かな町です。

岐阜県南西部の濃尾平野には、木曽川・長良川・揖斐川という大きな河川が3つ流れており、この3つの河川を木曽三川と呼んでいます。揖斐川は全長120kmほどで、その源流から中流域までが町の中央部を流れております。源流域の町という事で、下流の方に安全で安心な水をお届けするため様々な取り組みをしています。

岐阜・愛知・三重・長野の4つの県の44の自治体で木曽三川流域自治体連携会議というものを受けているこの自治体で将来にわたって連携して水環境の保全に取り組んでいこうという事で、今年8月に木曽三川流域の自治体さん方に揖斐川町にお集まりいただき、木曽三川流域自治体サミットを開催しました。今後も連携して水環境の保全に取り組んでいこうといった事で、今回のこのサミットと同じような形で各自治体さんの取り組みの紹介や意見交換をさせていただきました。

川を活かした取り組みを通じて当町の魅力アップという事を今後もやっていきたいという風に考えておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



## 高知県四万十市 中平 正宏 市長

四万十市は平成17年4月10日に、旧西土佐村と旧中村市が合併をして誕生しました。面積が632平方kmで四国で4番目の広さです。四万十川をはじめ、後川・中筋川の3つの河川が市の中心地を流れています。その上流に、今年4月10日に道の駅「よって西土佐」が西土佐地区にオープンしました。また、アユが豊漁であり、他にも手長エビや天然うなぎ等、川の幸に恵まれたところです。

観光面では、屋形船で年間230万人近い方に来ていただいています。また、「遅咲きのひまわり」や映画「カールニカーラン」等の舞台になった事もあり、最近では台湾、あるいはシンガポール、香港等々から多くの観光客が訪れているため、全てのホテルにWi-Fiの設置等の取り組みをしています。

また同時に、ツルの里づくり、アユの瀬づくり、そして魚のゆりかごづくりという事業を地元の自然再生協議会の方々と一緒に行い、昨年度はナベヅルを中心に、多い時には約239羽が飛来をしました。また、近年アユの産卵所が少なくなっており、国土交通省中村河川国道事務所の方々と一緒に、産卵所の整備等も行っております。

ダムにつきましては、今年台風16号が市を襲いましたが、堤防高が9m60あります中筋川ダムができたおかげで越水せずすみしました。約1m25の水位の低減効果がありまして、これがなかったら完全に堤防を越えておりまして、大きな被害が出ていたのではないかなと。また今月13日には横瀬川ダムの起工式をやっていただくわけですが、それによりましてまた60cmの数位の低減効果がありますので、これができるかと計画高水位までも、おそらく水位は上がらないであろうと、その地域住民が大変安心をしているところでありますし、また今後市のコンセプトといたしましては、川と共に生きる町というのをコンセプトにして今後振興を図ってまいりたいと考えておりますので、またよろしくお願い致します。



## 福島県会津若松市 室井 照平 市長

会津という地名は古事記に記述されているくらい歴史があるところであり、伝統的な産業の中に「酒・味噌・醤油」の生産といった醸造業もあるわけですが、それは阿賀川などからの恵まれた灌漑用水、そして稲作に適した気候によって産出されています。会津の米も非常においしいお米で、我々のPRできる場所だと思います。

かつては新潟から阿賀野川を経由して海産物を運んでおりました。この海産物は保存のきくように加工され、ニシンやスルメを天ぷらにするという伝統料理も残っており、独特の食文化となっています。ニシンの山椒漬、干し貝柱で味付けするこづゆ等の会津地方の郷土料理がございますので是非ご賞味いただきたいと思っております。

会津若松市では、阿賀川での自然を活かしながら水辺に近づいて遊ぶ事のできる「水辺の学校」というものを整備していただき、子供たちが川に遊び、川で学ぶ事ができる自然のふれあいの場として使わせていただいております。また、魚に関しましては「イトヨ」という綺麗なところにしか生息しない魚を観察できる場所も整備させていただき、やはり自然は取り戻したいという事で取り組んでいるところです。

阿賀川の河川敷はスポーツレクリエーションの拠点にもなっており、運動公園や緑地、それからサイクリングロードもあり、市民の方以外にもご利用いただいているところです。

本市の河川もだいたい水質が改善され、生き物が生息しやすくなっており、また子供たちが湯川で安全に遊べるような川づくりを目指すという事で、市民の皆さんの河川環境の意識向上を図る活動として、一斉清掃をやっていきます。これを年間複数回、市民の皆さんと一緒に積極的に活動していきます。また、公共下水道もしっかり繋いでいただき、河川がきれいになるように普及を呼び掛けているところです。

今後とも魅力ある水辺空間を創出しまして、街の誇りとなるような美しい川づくりを我々も進めていきたいと思っております。本日お聞きした各自治体さんの参考になるお話を、今後の取り組みに是非活かさせていただきたいと思っております。



## 福島県いわき市 近藤 孝幸 参事兼河川課長

いわき市は東北地方の太平洋岸の最南端でございます。昭和41年の10月1日に14市町村が合併いたしまして誕生した市で、面積は1232平方kmあります。

いわき市で抱えている河川は、全体で11水系あり主なものは、北の方から夏井川水系、藤原川水系、鮫川水系の3水系を擁する形となっており、いずれも2級河川という事で福島県の方で管理いただいております。ダムにつきましては3つのダムがあり、工業用利水、農業用水等に利用されており、東北地方での工業生産の出荷高も東北で2番という事になっています。

今年は市制50周年目を迎えており、この節目をシンボルフレーズである「いわきステキ半世紀」のもと、50周年50の事業という事で銘打ち、現在いわきサンシャイン博や様々なイベントを開催しているところです。

今なお震災の影響が残るものの、海岸線60kmにおきまして、県の施工により防潮堤工事、あるいは防災緑地の工事、あとは海に接続する河川の水門設置工事・震災復興土地区画整理事業など復興は進んでいるような状況です。

観光産業においては、フラガールの誕生の地「スパリゾートハワイアンズ」において、いわきならではの事業を展開しており、民間と協力しながらフラガールズ甲子園等のイベントを開催するなど、観光交流人口のさらなる拡大と再生を目指して頑張っています。

最近では、本市ゆかりの湯長谷藩をモチーフにした映画「超高速参勤交代リターンズ」が上映され、今作では地元ロケで市指定無形民俗文化財のじゃんがら念仏踊りなども撮影されており、これを機に全国に本市の歴史や情報の発信や、地域経済の活性化などに繋がればと考えています。

さて、河川は時として災害等で我々に牙をむくこともある一方、潤いと安らぎを与えている貴重な水辺空間でもあります。本市の2級河川、鮫川の河川敷では先の震災で原発事故による長期避難者の方々との交流を深めることを目的に、今年度パークゴルフ場のコースの増設など、防潮堤や河川の築堤といった防災上の災害復旧復興だけではなく、そこに暮らしている方々の心の復興にも心を砕いているところです。

本市は市制施行50周年を迎えたところですが、次の50年に向け市民と河川美化活動を通し、河川環境を守り育てるとともに川に親しむ環境づくりを今後とも進めて、次の世代に繋げてまいりたいと考えています。



## 福島県下郷町 星 學 町長

下郷町は会津若松市の中心部から南に35km。それから阿賀川の源流の南会津町から北へ12kmに位置する町でございます。この阿賀川が町の中心部を南北に流れております。大きなダムが2つあり、水力発電所が複数あるため発電の町でもあります。今は、観光の町として、年間120～130万人の観光入込客数があり、下郷町というより「大内宿」と言った方が全国的に知られています。他に塔のへつりという観光スポットもあります。阿賀川の川底からお湯が出ていて、これを露天風呂にする計画があり、また、湯野上温泉駅近くの夫婦岩を展望台からみていただくという計画もあります。

私は、小学3年の時に阿賀川で水泳ぎを覚えました。それから60年も経ちますと、子供たちが泳げなくなったというような環境になってしまって非常に残念ですけれども、露天風呂だとか夫婦岩を見てもらうような観光スポットを作って町の活性化をしていきたいというのが私の考えですので、ぜひとも皆さん、そして、国の皆さん、県の皆さんのご協力をいただき、進めてまいりたいと思っておりますので、これからもよろしくお願い致します。





## 福島県南会津町 大宅 宗吉 町長

南会津町は平成18年に合併いたしました。1町3村が合併いたしまして福島県内ではいわき市さんに次ぐ広い自治体になりました。約900平方kmございます。そこに今現在1万6,000人ですから、1平方km、人口密度17人くらいしか住んでません。そういう地域ですが、昨年の関東・東北豪雨災害。それから、5年前の新潟福島豪雨災害が私どもの地域を襲いました。

新潟福島豪雨災害は、道路あるいは住宅を1m以上の土石流で埋めたという災害でありまして、昨年の10月によく最終的な復旧事業が完了したという事ではありますが、それが終わらないうちに昨年の9日10日に今度は関東東北豪雨災害で、その時は荒海山、それから桧沢川、館岩川を中心とした災害に見舞われました。

本当にこの5年間、南会津町は大変な災害がございまして、本当に災害の恐ろしさを目の当たりに感じております。そういう意味で地域の住民には、やはり自分の命は自分で守るんだと、自主防災の意識が芽生えてきて、協力して安全安心な町づくりをしようというような事を心がけているところであります。

災害によりまして川が全く変わりました。私どもが小さい頃は本当に深くて底が見えない箇所がいっぱいあったんですが、今はみんなそういうところが足首ぐらいになりました。ですから、魚の住む環境がない、それから状況によっては危険水位まで土石流が、土砂が溜まっているというようなところもありますので、是非安全な川づくり、そして生態系の守れる川づくりという事で色々ご支援いただきたいと思っております。



## 福島県北塩原村 小椋 渉 副村長

北塩原村は喜多方市の東側にあり、人口2,900人ほどの小さな村でございます。

長瀬川が猪苗代湖に注ぎ、大塩川が喜多方市を經由し、阿賀川水系の支流であります日橋川に注いでいます。村の中央部は高い山になっており、その稜線を境にして東側が標高800から1,000mの裏磐梯地区、それから西側が標高200から500mの中山間平坦地の大塩・北山地区となっており、その地理地形から大きく2つの特性を見せているところです。

裏磐梯地区につきましては、磐梯山の噴火により河川がせき止められてできました湖沼群、それから磐梯山などの山々が織りなす山紫水明の景勝地であり、昭和25年に磐梯朝日国立公園に指定され、現在年間約260万人の観光客が訪れる福島県を代表する観光地の1つとなっています。

一方、北山・大塩地区につきましては中山間地域から会津盆地へ続く豊かな田園地帯が広がっており、大塩川・三の森川が水田を潤す農業に欠かせない存在となっています。

村では平成3年に下水道事業を着手しており、平成14年度には全村で下水道化事業を完成させたところです。今回のサミットの間にもございますように常に下流を想いという事で、上流の責任を果たす事も意識し、猪苗代地域の皆さんと一緒に、川の利活用と併せてソフト、ハード両面で湖沼群の水質保全に取り組んでいるところです。



## 福島県西会津町 伊藤 勝 町長

西会津町の中央に1級河川の阿賀川が流れており、その中に町の名所の一つ「銚子の口」という所があります。新潟から水運で物が運ばれ、会津の方に来たときに、この銚子の口は狭く急流なため先に行く事ができず、ここから陸揚げをされて会津の方に物資が運ばれたということで、今では町の観光の名所の一つになっております。是非皆さんご覧になっていただければなと思います。

また、この周辺は大規模な地滑り地帯であります。かつて慶長の大地震でこの一部が埋まってしまい、会津が水没したという事が歴史に残っているところです。今後またそのような事がないように、国土交通省北陸地方整備局の阿賀野川河川事務所の皆さんに力を出しています。

こうした地滑りのメカニズムを地質学と共に学びたいという方は、是非おいでいただければと思います。そのような町でありますので、ご紹介をさせていただきたいと思っております。



## 福島県磐梯町 橘 純一 副町長

磐梯町は、磐梯山の西山麓に広がる3,600人の小さな町です。会津仏教文化発祥の地という事で、国の指定、慧日寺跡がございまして、また南東北最大級の規模を誇るスキーリゾート、アルツ磐梯を有する歴史とリゾートの町です。

当町は喜多方市さんの上流に位置する源流域であり、大きな河川というのはございませんが、阿賀川水系の一翼をなす支流の1級河川の大谷川と日橋川が町の東西に流れています。

日橋川は猪苗代湖を源流とする河川であり、大正時代にこの水を活用した複数の水力発電所が立地し、町の工業化と共に日本の高度経済成長を支えてきたという歴史があります。

それから磐梯山の西山麓を源流とする1級河川の大谷川ですが、過去何回か水害等が発生をし、農地に土砂が入ったりというような経過がありましたが、アルツ磐梯リゾート開発に伴い、防災調整池が整備をされた事で現在は水害等の発生は全くありません。地域の安全安心が確保されているというような状況です。

また磐梯山の西山麓から湧き出る湧水は日本の名水百選にも選ばれており、磐梯町の上水道の水源として活用するだけでなく、地下水を含めて酒造会社や製氷会社、あるいはレンズ工場の方でこのきれいな水が活用され、地域経済の振興にも大きく寄与しているところです。

当町は上流域という事でもありますので、清らかな水を美しく清らかなまま下流域の方に引継ぐというのが、やはり上流域に住む我々の責務だという事がございます。町内の下水道の施設については、ほぼ100%完備というような状況であり、今後とも河川環境の維持に努めながらいつまでも地域に愛される河川として保全に努力をしていきたいと考えているところです。



## 福島県猪苗代町 前後 公 町長

猪苗代町は、磐梯山と猪苗代湖に代表されるように、豊かな緑や清らかな水に恵まれた雄大な自然が脈々と息づく山紫水明の地でありますと共に、この自然環境に加え、世界の偉人「野口英世博士」の生家や「会津藩祖・保科正之公」を祀る土津神社をはじめ、多くの名所旧跡に恵まれていることから観光の町として多くの方々にご来町いただいております。

当町には松原湖から小野川湖・秋元湖を経て猪苗代湖に注ぐ長瀬川をはじめ複数の小規模な河川がありますと共に、猪苗代湖から阿賀川に注ぐ日橋川や歴史的な土木事業により構築された安積疏水の取水口があり、これら河川や猪苗代湖の貴重な水は、地元猪苗代町はもとより、会津盆地や郡山盆地の農業用水、水道用水・工業用水、そして発電用水として利用される貴重な水源として住民生活と産業振興を支えています。

河川の災害対策につきましては、平成元年や平成10年の豪雨災害を契機にそれまで東京電力が水位管理を行っていた裏磐梯三湖(松原湖・小野川湖・秋元湖)に洪水調節機能を追加していただくと共に、猪苗代湖については、十六橋水門を改修して水位調節機能を持たせ、平成17年から東京電力に代わり福島県において裏磐梯三湖と合わせた総合的な治水管理を行っていただいております。

当町は、上流域にある町の責務としてこれまで下水道の整備や地元住民による適正な河川環境の保全に努め、平成14年度から17年度まで4年連続で猪苗代湖の水質が水質日本一に輝きました。しかし、残念ながら現在は大腸菌群数が環境基準を超過したことによりランキングの対象外となってしまいました。

当町では、かつて輝いた猪苗代湖の水質日本一を取り戻すため、官民協働による河川環境保全事業の推進を図ると共に、福島県や各種協議会、民間企業、更には個人ボランティアの方々のご協力により、猪苗代湖の水草回収等に努めております。



## 福島県会津坂下町 齋藤 文英 町長

会津坂下町につきましては、喜多方が会津盆地の北の拠点であれば、ここから南の方に15kmくらい行ったところに会津盆地の西の拠点として会津坂下町がございます。川は阿賀野川に通じる阿賀川と只見川が流れておりまして、この二つは喜多方市内で合流しております。

面積が現在91.59平方kmでございます。その三分の一が水田地帯であります。今日のテーマであります上流は下流を想い、下流は上流を敬う。この辺の気持ちは昔はまだ醸成されておらずでして、水喧嘩とは言わないまでも非常に水争いが激しい地域がございました。その後、河川の整備あるいはかんがい排水の色々な整備によって、今ではよりよい米がさらに作れるようになっております。湯川村さんと共同で道の駅を運営している中で人の駅として国土交通省様の阿賀川河川事務所の水防の防災センターの機能を備えておりますので、非常に有効な形でやっていけると思います。もう一つの川の駅という事で、川を利用しましょうという事で始まったんですけれどもなかなか難しい部分もございます。子供たちも水に親しむという事がなくなってます。これからあの辺を整備しながら、釣りができるような、あるいは最終的には、カヌーもできるようにしたいなと思っているわけでもありますので、そういう風な親水的な整備をしていきたいと思っております。ぜひ他県からおいでの方はお帰りの際に寄っていただければと思います。



## 福島県柳津町 井関 庄一 町長

柳津町は会津若松市から西に25kmのところにあります。1級河川の只見川を代表して大小90の河川がある町です。

また観光資源の1つにもなっております溪谷を走るSLや、トロッコ列車が新緑また紅葉の大自然の中を急がずゆっくり走っていただいで好評を博しているところです。

川の利活用ですが、只見川の上流に滝谷川という川があり、その河原ではスコップを預かり自分で温泉を掘って楽しむという「マイ温泉」というような事を行っています。また只見川の利活用には、21年にオーナー制で桜の植栽をし、県内外から皆さんに参加をしていただきました。あと5年もすると大変きれいな桜が見れるのではないかなという思いであります。

岩上にそびえたつ福満虚空蔵菩薩、円蔵寺という名刹があり、建立したときに木屑が只見川に流れて、その木屑がウグイになったという事で、現在ウグイがものすごく生息しています。それはもう観光の名物であり、この福満虚空蔵尊にお参りを3回するとお金が不自由しないといわれておりますので是非皆さんに足を運んでもらえればありがたいなと思っています。まず柳津温泉に1泊し、そのあと西山温泉に1泊していただき、帰りはお参りして栗饅頭を買っていただければ、来たかいがあるという事がありますので今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。



## 福島県昭和村 馬場 孝允 村長

昭和村は福島県の奥会津地方の中ほどに位置しており、周囲を1,000m級の山々に囲まれた山村です。冬の間は積雪が2m以上になり、1年の半分は雪に覆われている豪雪の村でもあります。村の面積の90%以上は山林であり、河川の源流をたたえる水の美しい村でもあります。村を横断するように阿賀野川水系、只見川支流である野尻川が流れており、その流れに沿って集落が連なるコンパクトな居住地区となっています。

本村はかすみ草栽培で夏から秋にかけて全国シェアの7割を占める一大産地となっています。自然と共生した暮らしが魅力の一つです。

本村の伝統的な特産品として、イラクサ科の多年草であるからむしを栽培しており、ユネスコ無形文化遺産に登録されている新潟県の越後上布「小地谷縮」の原料にもなっています。からむしの茎の皮を剥いで繊維質を取り出す作業は全て手仕事で行っています。その作業に欠かせないのが村に流れる冷たい清水です。からむしが腐らないように作業工程の合間合間に冷たい清水に浸しながら上質な繊維質を取り出す方法を、先人たちから受け継いでおり、自然の水の流れは昔から暮らしになくてはならないものであります。

本日は川サミットという事で川にまつわる村の取り組みを紹介させていただきました。緑深い山々から流れる清らかな水をたたえる川の流れなど自然の恵みと折り合いながら暮らししていく。そのような暮らし方が昭和村らしさを形づくっている事を改めて思い、村の魅力としてこれまで以上に発信していきたいと考えています。



## 福島県会津美里町 弓田 秀樹 副町長

本町は、会津盆地を流れる阿賀川の西側、中流域に位置し、平成17年に2町1村が合併して誕生しました、人口2万1,000人あまりの町です。

町には東側を流れる一級河川阿賀川と、町の中心部を流れる阿賀野川水系の一級河川宮川があります。阿賀川には、河川敷を利用したオートキャンプ場を含むせせらぎ緑地が整備されておりまして、多くの方にご利用いただいています。また、阿賀川河川事務所のご協力のもと、オキナグサを

守る会が地元の小学生とともに、堤防への植栽活動を20年以上続けておりまして、毎年一面に赤紫色の花が咲き誇り地域に癒しを与えてくれています。

一方、宮川では、平成17年に受益面積約4,500haの新宮川ダムが完成しまして、農業用水の安定供給が可能となり、現在約400haの圃場におきまして水稻の直播栽培が行われ、稲作経営の合理化に取り組んでいるところです。また、下流域の市街地を流れる河川敷には、テニスコートやトリムマラソンコース、公園などを整備し、多くの町民の健康増進に寄与するとともに憩いの場となっております。

河川は、時には災害の危険もありますが、そのための治水対策はしっかりと行いまして、これからも川の水の恩恵を受けながら川と共に生きる、そうした営みを続けていくことが大切だろうと思います。

本町は、大変神社・仏閣の多い町です。機会がございましたら是非おいでいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



## 新潟県阿賀町 波田野 正博 副町長

当町は新潟県の東部にあり、町の東側は福島県境に接する人口約1万2,000人あまりの山間地域の町です。平成17年の合併で町の面積は952.88平方kmで、新潟県内では3番目に大きい行政区域を有しています。

町の中央を1級河川の阿賀野川が、上流福島県側から新潟市に向かって日本海側に注いでいます。阿賀町は新潟市と福島県会津若松市のほぼ中間点にあり、明治19年まで会津領でした。阿賀野川の舟運、会津街道の陸運で栄え、

会津と越後を結ぶ水路・陸路の要衝の地として人・物・文化・情報の交流に大きな役割を果たしていました。特に阿賀野川の舟運は町の発展に大きく関わってまいりました。阿賀野川は難所が多く、運航には困難を極めましたが、米や塩などを中心に生活に欠かせない物資の輸送を支えていました。

現在は阿賀野川水系の豊富な水量と急峻な自然環境から水力発電所が5か所で稼働し、自然を活かしたクリーンなエネルギーが私たちの生活を支えています。また、以前からボート競技に熱心に取り組んでおり、今では気軽にできるスポーツとして広く町民に定着しています。毎年9月の第1日曜日には町をあげて阿賀野川レガッタを開催しています。

多くの恵みを与えてくれる阿賀野川の上流域として常に下流域を想い、安全できれいな水の維持管理に今後も努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願い致します。

# 歓迎交流会

首長サミットの終了後、酒どころ喜多方ということで会場を大和川酒蔵北方風土館に移して歓迎交流会が開催されました。

山口信也喜多方市長の挨拶に続き、渡部孝雄喜多方市議会議長から乾杯のご発声を頂戴しました。なお、喜多方市は日本酒による乾杯を推進する条例が制定されておりますので、喜多方市の日本酒で乾杯が行われました。

その後、会津喜多方祭囃子盆踊り保存会の皆さんによる会津磐梯山などの演奏が披露されました。会津地方の郷土料理の「こづゆ」や昨年のインターナショナル・ワイン・チャレンジの日本酒部門でチャンピオン・サケを受賞した銘柄のお酒を含む喜多方市内の11蔵元の日本酒を愉しんでいただきました。



山口信也喜多方市長の挨拶



中平正宏四万十市長による中締め



乾杯の様子



会津喜多方祭囃子盆踊り保存会の演奏



会津の郷土料理「こづゆ」



市内 11 蔵元の自慢の日本酒



飯豊山の伏流水



大和川酒蔵北方風土館

# 全国川サミット in 喜多方 開会式

■実施内容 第二日目2016年11月5日(土) ■会場 喜多方プラザ文化センター

## 【第25回 全国川サミットin喜多方】

■オープニングセレモニー 下柴彼岸獅子舞

■開会挨拶 山口 信也 喜多方市長

■来賓挨拶 北陸地方整備局長 中神 陽一 様(代理) 北陸地方整備局 河川部長 伊藤 和久 様  
福島県知事 内堀 雅雄 様(代理) 福島県副知事 畠 利行 様

第25回全国川サミットin喜多方は、喜多方市関柴町下柴地区に伝わる下柴彼岸獅子舞の演舞で始まりました。下柴彼岸獅子は天正2年より代々伝えられ彼岸獅子舞の元祖として知られており、福島県重要無形民俗文化財にも指定されています。

山口信也喜多方市長が「市内を流れる大小様々な河川は肥沃な土地と良質で豊富な水を恵み、阿賀川舟運により私たちの生活に繁栄をもたらしました。歴史や流域文化を育み、そして様々な産業を発展させ、私たちの生活を支えてきた川の恩恵を再確認しまして、川と共存したまちづくりを推進するとともに全国川サミットを本市で開催することによって、自治体同士のさらなる連携を深める交流の場となることを願っております。」と歓迎の挨拶を述べました。

来賓として挨拶に立った伊藤和久北陸地方整備局河川部長は「関東・東北豪雨の被害状況などを踏まえ、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えにたち、社会全体で洪水に備える水防災社会の再構築に取り組んでいるところです。」と挨拶されました。畠利行福島県副知事は「川は生活・農業用水への利用はもとより人々の交流や様々な体験を通じた学びの場として活用されるなど、私たちの生活に大きな恩恵をもたらしています。」と挨拶されました。



福島県重要無形民俗文化財の下柴彼岸獅子



参加自治体紹介コーナー



アクアマリンふくしまによる移動水族館



山口 信也  
喜多方市長



伊藤 和久  
国土交通省北陸地方整備局河川部長



畠 利行  
福島県副知事



# 絵画コンクール表彰

夏休みに、喜多方市内の小学校の皆さんに川の風景や川での体験や思い出など、喜多方の川に関する絵を描いていただきました。その中で優秀な成果を収められた低学年・高学年それぞれ6名の方々を表彰いたしました。

入選された作品は川サミットの会場である喜多方プラザ文化センターのロビーに掲示され、喜多方プラザを訪れた市民の方々にも見ていただきました。



入選作品の掲示



サミット会場ロビーに掲示されました



低学年受賞者



低学年受賞者



高学年受賞者



高学年受賞者

# 学校での取り組み

## ■ 塩川小学校

「考えよう！川とわたしたちのつながりを 川がつくった塩川とわたしたちの暮らし」

劇仕立てで川と関わっている塩川町の暮らしについての発表が行われました。町内で毎年行われる「川の祭典」を通して塩川町の歴史に興味を持ち、授業で習ったことを紹介して塩川町と川の密接な繋がりについて見直しました。昔は川で遊んでいたのに、今は危ないからと川遊びが制限され、川との距離感が遠く感じてしまっています。川によって栄えた塩川町ということを確認し、これからの川との関わり方について考え、川遊びができるようになるには清掃などの他にどんなことをしていくのがよいのかという問題提起をしました。



塩川小学校の発表



水害を防ぐための工事前後の航空写真



川の祭典の様子

## ■ 駒形小学校

### 「大切な水は森林から」

駒形小学校では農業科の学習で米や野菜を栽培し収穫祭で美味しく頂いています。どうして美味しいのかと地域の人に質問すると「綺麗な水があるからだよ」という答えが返ってきました。この綺麗な水はどこから来るのかという疑問を持ち、川の達人の方々の協力の下、上流の一ノ沢の水質調査のため酸素濃度や指標生物などを調べました。源流を見つけるために山を分け入っていくとブナの原生林にたどり着き、そのブナの原生林が蓄えた豊かな水が湧き出て小さな流れとなり、沢となり、やがて大きな沢となり水の綺麗さを失わずに住む街まで流れて生活を潤わせていることを知りました。森林の力の凄さを知り、自然を大切にする事を誓い、水を運ぶ川を大切にする事の重要性を知りました。地域の川が綺麗であることを嬉しく思い、この自然を次の世代へ繋ぐために小さなことからやっていきたいと発表を締めくくりました。



川の達人と協力しての水質調査の様子



一ノ沢の源流



私たちの調べた結果は！

## 「エベレスト登山に挑戦 大自然から学んだこと」

あったかふくしま観光交流大使 俳優 なすび 氏



### エベレストに挑戦

東日本大震災以降、生まれも育ちも福島県ということでボランティア活動・支援活動・応援活動を行いました。その活動を行っている中で直接的にお金や物を被災地に届けるという事ではなく、福島に元気と勇気・夢と希望、そしてもっと笑顔を増やしたいという思いと、福島県外の方には福島の事を誤解なく理解してもらうための情報発信の一つとしてエベレスト登頂に挑戦しました。山に対する知識や経験が無く、無謀じゃないかとも言われる中、奇跡を起こしたいという思いで挑戦に踏み切りました。2013年初挑戦のときには体力の限界で頂上目前で断念、2014年再挑戦のときには雪崩事故が起こり登山ができませんでした。2015年にはネパールで大きな地震が発生し、ベースキャンプにて大きな雪崩事故に遭遇し3度目の挑戦も失敗に終わりました。今年4度目の挑戦にてエベレスト登頂に成功しました。

### 自然と共に自然に受け入れてもらって生きていく

人間が暮らしやすいように自然環境を変えてしまっている中で、もしかしたら歪ができてきてしまっているのではないかと、人間が自然を制して環境を整えていくということで自分たちの首を締めてしまっているということはないのかな？と感じます。ネパールで自然と共生して暮らしている人々を見てきたが、彼らは不便を感じているのかもしれないがこれから長い流れの中で考えていった時に、そういう彼らのような生活を見直してもいいのではないかと感じた。

福島は原発事故の影響もあって再生という意味では道半ばなところもありますが、福島が自然と共生していこうという活動の部分で先進的な地域となり、旗振り役となっていったら素晴らしいことではないか。それがこれからの福島復興再生のひとつの基準になっていくのではないかと考えています。今、色々な形で見直されなければならないこと、人間が生きていく上で本当に必要なものは何なんだろうかという事を見つめ直しているところです。

IHや電子レンジで温めたりするので、最近火を見たことがない子がいるという話を聞きました。東日本大震災でライフラインがなく、電気ガス水道が機能しなくて非常に困ったと思います。同様に大震災があったネパールに目を向けてみますと、地震の後にネパール政府の手の届きづらい郡部の方へ復旧のお手伝いに行ったときに現地の人に何か困っていないかと聞くと、家が崩れたり大変な中なのに思ったより笑顔で困ってないんです。普段の生活から電気もガスも水道もない中で生活をしているので、暗

くなったら寝て、かまどを作って煮炊きをし、水は地震の影響で近くから水が湧くようになって逆に助かってる、など自分たちでなんとかできる人間としての逞しさを備えていました。我々は便利な生活を享受していく上で、人間としての本来の強さを失ってしまっているのかもしれないと感じました。

### 福島への想い

18年前「電波少年」という番組で懸賞生活を行っていた時に、全国の人がTVの前で応援をしてくれていました。そうであれば今回自身が困難に身をおく事で日本全国の方、そしてエベレストを目標とする事で世界中の方々に対しても福島を前向きに発信しようとしている人間がいるんだということを知ってもらい、応援の声を日本のみならず世界中から自分に集めることで、その集まった声の行き着く先を最終的に福島にしたいなという思いがあります。どうしても風評被害を払拭するのが大変だという部分があるので、福島で頑張ることで旗を振ることができるのではないかなと思ってエベレストへの挑戦を始めました。

エベレスト登頂の際に実は福島の法被を着ていました。そうすると世界の登山家達が声を掛けてくれて、福島から来ているという話をすると「福島に人が住んで大丈夫なのか？」と質問されたりしました。

福島の風評被害を払拭するのは大変で、いろいろな方が大変な努力をされていると思います。私は電波少年のイメージを20年引きずっていました。しかし私は今回エベレストに登頂したことによって、新しく私をイメージするものが出来ました。最近触れ合ったお子さんなんかは私のことを「エベレストに登った人」として認識してくれています。そういう意味で言うと、福島にも新しいイメージを植え付けることが実際できるのではないかと思います。私も自分のイメージを180度変えることができました。福島もまだまだ大変でしょうがイメージを変えることが可能です。これから福島を背負っていく子どもたちが、福島で生まれ育ってよかったなと思い、福島で生まれ育ったことに誇りをもって福島で生きていく・福島から巣立っていくというような、お子さん達が前を向いて進んでいくきっかけになったらいいのかなと、エベレスト登山や自然と触れ合う中で学び感じました。



# サミット宣言～閉会式

第25回全国川サミットin喜多方は塩川小学校と駒形小学校の児童がサミット宣言を読み上げ、今サミットのテーマである「上流は下流を想い、下流は上流を敬う ～私たちの生活を支える大切な川～」という想いのもと、歴史や流域文化を育み、そして様々な産業を支えた川の恩恵を再認識するとともに、これからも川と共生した地域づくりに取り組んでいくことを誓いました。

山口信也喜多方市長から次回開催地の高知県四万十市・中平正宏市長へサミット旗が受け渡されました。中平正宏四万十市長は「常設事務局となったリバーフロント研究所と共に精いっぱいのおもてなしを高知県四万十市でしていきたいと思っておりますので、ぜひ多くの皆様にご参加していただきたいと思っております。」と挨拶しました。



サミット旗授与



サミット宣言



参加自治体 記念撮影



中平正宏四万十市長